

海域の概要

本湾は、奄美大島本島最南部に存在する湾で、南部を大島海峡に開いています。湾入り口には、白浜海岸海水浴場があります。湾内では、タイやフグの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：2.79 km

面積：11.17 km²

湾内最大水深：7.6 m

湾口最大水深：7.6 m

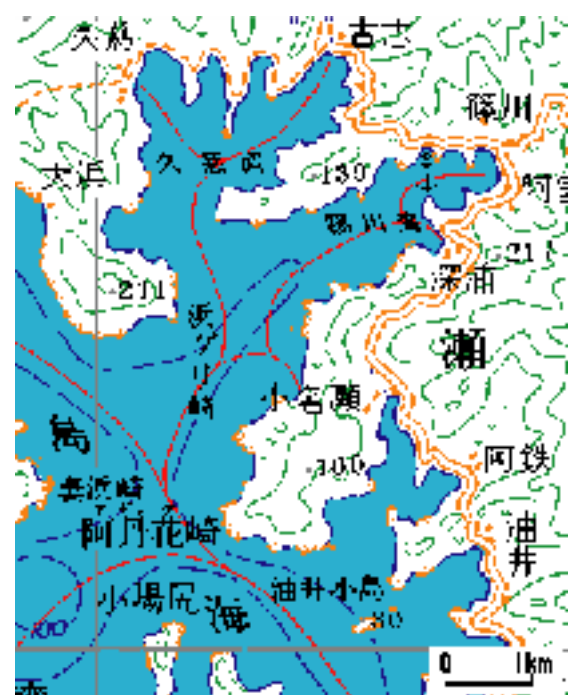
閉鎖度指標：1.20

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

鹿児島県大島郡瀬戸内町阿丹花崎から 325 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

奄美大島南部に位置し、湾口を加計呂麻島に向け大島海峡に開いている湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

篠川湾の中央部では魚類養殖が行われていますが、湾岸には大きな集落も流入河川もなく、水質は良好に保たれています。久慈湾には、小勝川と川内川が流入していますが、水質調査地点の COD 値は 1.4mg/l（平成 11 年測定）と良好な状態となっています。

久慈湾の底質は、細砂分が多い砂となっております。

自然

奄美大島と加形呂間島の間の大島海峡に面した久慈湾と篠川湾は佐栄崎によって隔てられた湾で、湾奥部を除き奄美群島国定公園に指定されています。

篠川湾の湾口には、白浜海水浴場や特に海水浴場の施設はありませんが、海水浴客に人気がある薩川湾鳥瀬があります。また、白浜集落の沖には小さな松林を持つ白浜離があり、美しい風景を形作っています。



篠川湾の白浜離

文化歴史

久慈集落の入り口にある久慈小中学校の体育館の前に、静かな湾を見守るように石碑が建っています。これは、教員伝習所があったことを記念して、昭和 59 年 11 月 22 日に建てられた「教員伝習所跡」の碑です。明治 14 年瀬戸内町全体を一学区として、小学校教員養成を目的として開所しました。明治 17 年の閉所までの三年間に、明治、大正時代に活躍した多くの人材を養成しましたが、そのころ奄美大島に教員伝習所が、たった 2 校だったことを考えると、その 1 校が久慈にあったということは、当時の学校教育において本町は奄美大島の中心地であったと考えられます。



教員伝習所跡

久慈湾は、戦前には帝国海軍の連合艦隊が集結した場所としても有名な湾です。

産業

それぞれの湾奥には久慈漁港、篠川港があります。篠川湾の中央部では、タイ・フグの養殖場があります。